

# インクルーシブ教育システム構築モデル事業 (スクールクラスター)

今年度から、佐倉市において、文部科学省指定「インクルーシブ教育システム構築モデル事業（スクールクラスター）」の研究に取り組んでいます。地域内の資源（学校等の機関や人）の有効な組合せ及び活用により、特別な支援が必要な子どもへの指導の充実を図ろうとする研究です。

1年目の今年は、言語通級指導教室に通級する児童への指導の充実を目指して、以下のような取組を実施しました。

- 研究推進組織（運営協議会・言語担当者会議）の立上げ
- 学校支援コーディネーターの配置
- ことばの教室リーフレットの作成
- 早期支援に係る幼稚園訪問
- iPadの導入及びICT支援員の配置
- 子どもの自尊感情に関する調査の実施



学校支援コーディネーターが通常の学級での支援に入ります。

言語指導において iPad を効果的に活用し指導します。



2年目以降の研究を推進していくにあたって

## インクルーシブ教育システムとは

障害の有無にかかわらず、**すべての子どもが可能な限り同じ場で学ぶ**ことで多様性を認め合うとともに、特別な支援が必要な子ども一人一人の実態に応じた適切な学習環境の用意や支援を行うことのできる**多様で柔軟な仕組み**のことです。

## 合理的配慮とは

特別な支援が必要な子どもが、他の子どもと平等に教育を受けることができるようにするために、学校の設置者や学校が**必要かつ適切な変更・調整を行う**ことであり、子どもの状況に応じて学校教育を受ける場合に、**個別に必要とされるもの**です。

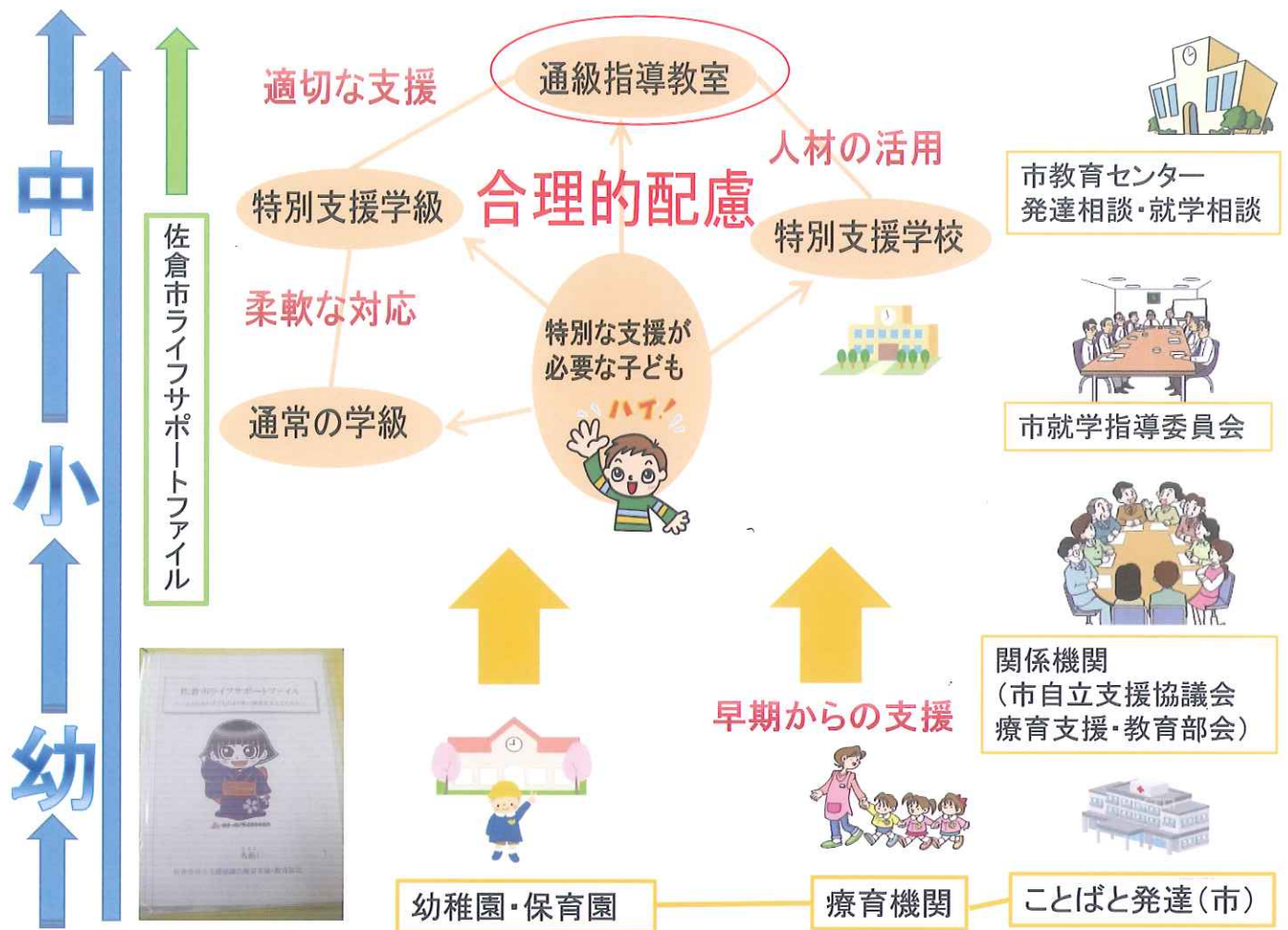
すべての先生方に求められること

2年目以降の研究にご協力ください

- 言語発達をはじめ、特別な支援が必要な子どもを深く理解すること。
- 子どもの実態に応じた柔軟な就学に対応していくこと。
- すべての教職員が、特別支援教育充実のための専門性を向上させること。
- 特別な支援が必要な子どもが十分に教育を受けられるように、合理的配慮を意識した授業づくりを行うこと。・・・すでに実践されていることがたくさんあります。（例：書字が困難な児童に対して拡大したプリントを使用する。）



# スクールクラスター(域内の教育資源の組合せ)を活用したインクルーシブ教育システムの構築



各機関が次のステージに対して継続的に支援をつないでいくためのアイテム「佐倉市ライフサポートファイル」を導入し活用しています。そして、**スクールクラスター**（地域内の教育資源）を最大限に活用し、その時々の子どもたちの実態に応じて柔軟な対応を行っていきます。それが、特別な支援が必要な子どもへの合理的配慮となります。この取組をとおして、インクルーシブ教育システムの構築をめざします。